

# 岩手県の 土地改良



## CONTENTS

- 新年のご挨拶  
水土里ネットいわて会長 館澤宏邦 .....2
- 新年のご挨拶  
全国水土里ネット会長 野中広務 .....3
- 平成23年度 農林水産予算の概算が決定 .....4
- 国営いさわ南部農地再編整備事業が完工 .....4
- 第33回全国土地改良大会長崎大会開催 .....5
- いわての農地・水・環境保全推進シンポジウム開催 .....6
- 農業農村の持つ多面的機能・役割をPR .....7

2011 No.554

発行所/岩手県土地改良事業団体連合会 盛岡市本宮二丁目10番1号  
TEL(盛岡)019(631)3200 FAX(盛岡)019(631)3260

編集発行人/川邊 賢治 印刷所/水が印刷株式会社

<http://www.iwatochi.com>

平笠裸参り (八幡平市) 平成22年度「農村景観写真コンクール」応募作品







# 新年のご挨拶

水土里ネットいわて  
会長 舘 澤 宏 邦

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様方におかれましては、清々しい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

平素より農業農村整備事業の推進並びに本会の業務運営につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、7月に八幡平市と岩手町、8月には一関市、12月には沿岸南部地域と県内各地で豪雨災害が発生し、農地や農業用施設に大きな爪跡を残しました。被災されました皆様には心からお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い復旧を願っております。

また、農家の経営安定化に向けて、米を対象とした戸別所得補償モデル対策が始まりましたが、その一方で国の農業農村整備予算は前年度に比べ6割もの大幅な削減となりました。

本県においては、水田の整備率が全国平均に比べ10ポイント以上も低い状況にあり、早急に全国並みの水準に引き上げる必要に迫られているほか、次々と耐用年数を迎える農業水利施設の維持更新が喫緊の課題であります。このような状況下での予算の大幅な削減は、次代を見据えた今後の農業農村の基盤づくりに大きな痛手となりました。農業の生産基盤や農村の生活基盤の整備を、戸別所得補償制度とともに施策の両輪として着実に推進することが必要であると考えております。

このような厳しい状況を打破するため、昨年8月に県内の農業団体や商工会議所連合会などの経済団体、県や市町会、町村会などの行政機関等が名を連ねた「農業・農村の基盤づくり推進大会2010」を開催し、本県の総意として大会決議を採択いたしました。大会決議は県議会においても請願として採択され、即日国に対して意見書が提出されるところであります。今後とも積極的な予算確保や制度要望に努めてまいり所存であります。

さて、来年度に目を向けますと、農業農村整備事業概算予算は前年比100%にとどまる一方、戸別所得補償制度の本格実施や、地域主権戦略大綱に基づく補助金の一括交付金化への流れが明らかになってまいりました。また、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）への参加検討にあたり、政府に設置された農業構造改革推進本部では6月までに農業改革の基本方針を示すこととしておりますが、農業農村をとりまく情勢は非常に混沌としており、我々も日々の動向を注視しながら対処していく必要があります。

本年は旧年にも増して厳しい状況となることが伺われますが、基盤整備と予算の在り方等について見直す好機であると前向きに捉え、先人が築き上げてきた貴重な資源をいかに守り、次世代に継承していくのか考えて行かなければなりません。

本会といたしましても、会員の皆様方への積極的な情報提供を行いながら力を結集するとともに、関係機関と綿密な連携を図りながら新たな事業展開と地域農業の振興に向け、役職員一丸となって一層努力していく所存でございますので、更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。



# 新年のご挨拶

全国水土里ネット

会長 野中 広務

平成 23 年の年頭に当たり、全国の農業農村整備事業の推進に御尽力いただいております皆様、謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

さて、我が国の食料自給率は 40 パーセントと極めて低い状況にあります。現在議論されている「環太平洋パートナーシップ協定（TPP）」に参加した場合、食料自給率は 14 パーセントにまで落ち込み、さらに就業機会を 340 万人程度減少させるのではないかと試算がなされています。

また、65 歳以上の高齢農家に 6 割を頼らざるを得ない危機的な農業構造と、厳しい農家経済の現状を鑑みた時、我が国の将来に対し、大変大きな危惧を抱かざるを得ません。

食料自給率を高めるには、水田の汎用化と農業水利施設の維持と更新を確実に進めるとともに、国土保全などの多面的な機能を有する農村地域の活性化に、今まで以上に取り組んでいくことが不可欠です。我が国の農地や農業水利施設は、先人達の知恵と労苦の結晶として現在まで継承されてきたもので、私たちはこれらを将来に続く子孫に確実に渡していく責務を負っていると考えております。

今、農業を巡る環境の変化や予算の激減により、各地の優れた持続可能なシステムの存続が危ぶまれる事態となっていますが、この時こそ、私たち水土里ネット関係者は、地域農業の発展と地域の活性化のために、「水」「土」「里」を担う中核的な存在としてしっかりと活動してゆく必要があると思います。地域の農業や集落が大きく変貌してゆく中で、地域の資源を地域の手でどのように守ってゆくのか、水土里ネットや都道府県水土里ネットとしてどのように行動し貢献していくのか等、真剣に考え、主体的に行動を起こしていく必要があるのではないかと思います。そのために、全国的水土里ネットをはじめとする仲間が結束して、地域から声を出し、必要な施策を提案し、積極的に行動してゆくことが何より重要だと思えます。

新しく輝かしい年の出発に当たり、私も皆様方とともに、全国の仲間とともに益々積極的な活動に取り組んでいくことを身の引き締まる思いとともにここに改めてお誓い申し上げたいと存じます。

本年が全国の皆様にとって良き年でありますように、御健勝と御発展を祈念いたしまして、私の新年の御挨拶と致します。



# 平成23年度 農林水産予算の概算が決定

## 1. 総括表

区分	22年度	23年度	対前年度比
	予算額	概算決定額	
	億円	億円	%
農林水産予算総額	24,517	(23,802) 22,712	(97.1) 92.6
1. 公共事業費	6,563	(6,285) 5,194	(96.8) 79.1
一般公共事業費	6,371	(6,092) 5,002	(95.6) 78.5
災害復旧等事業費	193	193	100.0
2. 非公共事業費	17,954	17,517	97.6
一般事業費	6,342	5,931	93.5
食料安定供給関係費	11,612	11,587	99.8

注1. 計数整理の結果、異動を生じることがある。  
 注2. 計数は、四捨五入のため、繰越において合計とは一致しないものがある。  
 注3. 上段( )書きは、一括交付金への拠出額を含む金額である。

## 2. 公共事業費一覧

(単位: 百万円、%)

事項	22年度	23年度	対前年度比
	予算額	概算決定額	
	億円	億円	%
農業農村整備	2,129	2,129	100.0
林野公共	1,870	1,790	95.7
治山	688	608	88.4
森林整備	1,182	1,182	100.0
水産基盤整備	822	724	88.0
海岸	49	41	82.7
農山漁村地域整備 交付金	1,500	(1,408) 318	(93.9) 21.2
一般公共事業費計	6,371	(6,092) 5,002	(95.6) 78.5
災害復旧等	193	193	100.0
公共事業費計	6,563	(6,285) 5,194	(96.8) 79.1

注1. 金額は関係ベース。  
 注2. 上段( )書きは、一括交付金への拠出額を含む金額である。  
 注3. 上記のほか、地域再生基金強化交付金措置額も内閣府に計上。

## 国営いさわ南部 農地再編整備事業が完工

### ▶ 労働生産性の高い農業経営の実現へ

奥州市胆沢区の国営いさわ南部農地再編整備事業(事業面積1,352ha)が完了し、12月1日、胆沢文化創造センターで行われた式典には、関係者約180名が出席して完工を祝った。

冒頭、佐藤憲雄 東北農政局長が「本事業により農地集積が図られた他、産直施設や農村公園も整備された。当地域が、活気に満ち、豊かで住み良い美し

い農村地域として発展することを心より祈念する」と式辞を述べた。

また、地元選出の小沢一郎 民主党元代表が「事業の効果を高めるには、生産者が安心、安定して農業を行っていくことができる仕組みを作っていくことが急務である」と祝辞を述べた。

本事業の完工により、従前の10a区画から50a区画を標

準とした農地の大規模化が図られ、営農の効率化による新たな地域農業の振興が期待される。



【祝辞を述べる

小沢一郎 民主党元代表】

# 第33回全国土地改良大会 長崎大会開催

▶ 「水・土・里を守り、育み、  
伝えていくことの大切さ」を再認識

全国水土里ネットと水土里ネット長崎が主催する第33回全国土地改良大会長崎大会は、10月26日～29日にかけて、長崎県島原市にある「島原復興アリーナ」他において開催された。

全国から集まった約3,500人の参加者は農村地域の資源活用の重要性や更新時期を迎えている農業水利施設等の資源を国民共有の財産として活用・再生していくことの必要性を再確認した。

オープニングの歓迎アトラクションでは、長崎民謡舞踊連盟島原支部「さつき会」による「長崎ぶらぶら節」の舞踊や、女性合唱団コール島原が「長崎の歌のメドレー」を熱唱し大会に花を添えていた。



【オープニングセレモニー  
和道「深江太鼓」の演奏】

大会式典では、水土里ネット長崎の宮本正則会長が「近年の農業農村は、担い手の減少や耕作放棄地の増大等により非常に厳しい状況にある。農業農村整備事業は、農業生産基盤の整備や保安全管理が農業生産力を支える上で重要な役割を担っている。我々は、食料の安定供給や自然環境の保全等の多面的機能を有する農業・農村を国民全体の共有財産として次世代へ引き継いでいかなければならない」と開催挨拶を力強く述べた。

また、主催者の全国水土里ネット野中広務会長は「今年度は農業農村整備事業の予算が激減したが、農家の方々の不安の声を払拭する意味でも国に対して来年度の予算を確保することを要請したい」と挨拶した。

その後に行われた土地改良事業功績者表彰では、農林水産大臣表彰6名、農村振興局長表彰13名、全土連会長表彰48名が表彰された。本県からは、前栗石町土地改良区理事長小山和



夫氏が全土連会長表彰を受賞した。



【全土連会長表彰の小山和夫氏】

大会宣言では、長崎県立農業大学校の前田拓也さんと早崎美紀さんが、「食料自給率の向上と、農村地域のもつ国土保全等の多面的機能を発揮させるためには、農村地域の資源活用の担い手である水土里ネットがその役割を十分に果たすことが重要である」と声高らかに読み上げ、満場の拍手で採択された。

27日～29日にかけて、参加者らは諫早湾干拓や堤防道路等の県内各地の事業視察を行い、土地改良事業に対する見識を一層深めた。

なお、来年度の大会は宮城県で開催される。



# いわての農地・水・環境保全 推進シンポジウム開催

## ▶ 広がる農村コミュニティ再生

岩手県農地・水・環境保全向上対策地域協議会（川邊賢治会長）が主催する「いわての農地・水・環境保全推進シンポジウム」が11月10日、盛岡市都南文化会館「キャラホール」で開催され、県内活動組織のほか、行政機関、土地改良区・JA等の農業関係者など約700人が参加した。

挨拶に立った川邊会長は「本対策により農業農村の持つ多面的機能の維持・増進が図られるとともに、集落内の世代間交流など農村コミュニティの再生が進み、取組団体からは高い評価を得ている。

この大会を通じ、これまで同対策に取り組んだ成果を組織間で共有して、更なる活動の充実を図るとともに、広く県民に

本対策の意義や必要性をPRしたい」と述べた。

次に吉田敏弘國學院大學文学部教授が「農村景観を守

る大切さ～関本寺の景観保全を通じて～」と題し基調講演を行い「景観保全とは見た目が美しいことや、そこに生き物が存在していることを表すものではなく、里を守る人がいること。それが一番重要なことである」と訴えた。

続いて活動組織の事例発表が行われ、水質・生き物調査を通じた生態系・水質保全活動（丹後土麗美の会：紫波町）、耕作放棄地解消（豊間根・農地・水環境保全組合：山田町）、減農業・減化学肥料の水稻生産（宮野目地区環境保全協議会：花巻市）と三者三様の取り組みが紹介された。

最後に吉田教授を



コーディネーターに、3活動組織の事例発表者がパネラーとなってディスカッションが行われ、各々の取組で培われた「結」の精神を絶やさぬためにも、この事業を継続して欲しいなどの意見が出された。

参加者は、「他地区の活動に刺激を受けた」「この対策を継続し、集落をさらに活性化していきたい」と感想を述べていた。



【挨拶を述べる川邊会長】



【パネルディスカッション】



# 農業農村の持つ 多面的機能・役割をPR

▶ いわて環境王国展2010に「希望郷いわての農村環境コーナー」を出展

水土里ネットいわて（館澤宏邦 会長）は、11月13日、14日の2日間、県農林水産部農村計画課、同農村建設課、県農地・水・環境保全向上対策地域協議会とともに、いわて県民情報センター（アイーナ）で開催された「いわて環境王国展2010」に「希望郷いわての農村環境コーナー」を出展した。

環境王国展初日には、「平成22年度小中学生による美しく豊かな村づくり絵画コンクール」と「農村景観写真コンクール」の表彰式が行われ、入賞者



【スタッフから微生物の説明を受ける子どもたち】

に館澤会長から賞状と副賞が贈られた。

表彰式が終わると、受賞者は農村環境コーナーに移動し自分の作品をバックに笑顔で記念撮影を行うなど入賞を喜んでいた。

同コーナーには、入選作品の展示、農業農村整備事業や農地・水・環境保全向上対策についてのパネルを展示したほか、農業水利施設が描かれた輪投げや水をきれいにする微生物の顕微鏡観察、NN紙芝居「骨寺村の歴史」「耳かけ稲荷と水げんか」の上演、農業農村整備事業の効



【当たっているかな？】



【館澤会長から  
賞状を授与される小学生】

果や土地改良区のアピールを当てるクイズなど盛り沢山の内容で開催期間中、家族連れなど約750人が訪れた。

来場者は、コンクールの入選作品に見入ったり、輪投げや顕微鏡の観察に夢中になったりしていた。また、クイズの答えを探そうとパネルと睨めっこし、農業農村整備事業や農業水利施設の役割、効果等を確認しながら、答えを書き込んでいた。

## 平成22年度「農村景観」写真コンクール入賞作品

賞	タイトル	氏名
最優秀賞	じいちゃんのお手伝い	田村 智美（八幡平市）
優秀賞	実りの頃	蒲澤 隆治（盛岡市）
優秀賞	夏休み	照井 俊男（盛岡市）
優秀賞	畑の夜明	田村 斉子（岩手町）



写真の部 最優秀賞



## 平成 22 年度小中学生による「美しく豊かな村づくり」 絵画コンクール入賞作品

	賞	題 名	氏 名	学年	学 校 名
小学校低学年の部	金	小友まつりでおどったよ	安部 蒼生	2	遠野市立 小友小学校
	銀	牛はかぞくだよ	小松 亜未	2	遠野市立 小友小学校
	銀	おおきくなってね	秋山 ひなた	1	洋野町立 帯島小学校
	銅	葉たばこはさみのお手つだい	小松 千秋	2	遠野市立 小友小学校
	銅	いねこきと草まるめ手つだったよ	佐藤 翼	2	奥州市立 沼沢愛宕小学校
	銅	さんさパレード	渡辺 陽光	2	盛岡市立 杜陵小学校
小学校中学年の部	金	草かりのじゅんび	及川 結惟	3	奥州市立 藤里小学校
	銀	ししおどり大すき	佐々木 詩織	3	遠野市立 小友小学校
	銀	いなかのとんぼ	金子 奈々花	4	矢巾町立 徳田小学校
	銅	ししおどりをおどったよ	菊池 嶺	3	遠野市立 小友小学校
	銅	朝の空気がとっても気持ちいい緑の村	佐藤 里紅	4	矢巾町立 徳田小学校
	銅	おいしいお米	佐藤 かなな	3	野田村立 野田小学校
小学校高学年の部	金	はじめての稲かり	安部 紫生	5	遠野市立 小友小学校
	銀	みんなで田植え	菊池 佑花	5	遠野市立 遠野北小学校
	銀	セミ	千葉 夏樹	6	奥州市立 人首小学校
	銅	お母さんと乳しぼり	菊池 愛利子	6	遠野市立 小友小学校
	銅	雪の夜のはだかまいり	藤澤 駿	5	遠野市立 小友小学校
	銅	田植	小形 佳奈子	5	奥州市立 衣川小学校
中学校の部	金	妹のおやつ	千葉 美帆	3	一関市立 舞川中学校
	銀	大根とったよ	柏崎 奈津美	1	大船渡市立 吉浜中学校
	銀	田植え	松本 琴音	2	花巻市立 湯本中学校
	銅	都市における農村からの恵み	荒木田 美月	2	花巻市立 湯本中学校
	銅	憩いの場	菊池 知咲	2	花巻市立 湯本中学校
	銅	美しいひまわりの夏	林 実穂	1	久慈市立 久慈中学校

## 絵画の部 金賞受賞作品



低学年の部  
「小友まつりでおどったよ」



中学年の部  
「草かりのじゅんび」



高学年の部  
「はじめての稲かり」



中学校の部  
「妹のおやつ」

※※

### 水土里ネットいわて 今後の行事予定

1月14日(金) 岩手県土地改良区統合整備推進協議会  
1月25日(火)～26日(水) 水土里ネット 役員研修会

次号 (No.555) は、4月発行予定です